



子どもの泉

子どもの泉 第41号
2019年10月1日発行

京都造形芸術大学
芸術文化情報センター
ピッコリー



〒606-8271
京都市左京区北白川瓜生山2-116
TEL: 075-791-8013
FAX: 075-791-3318
<http://www.piccolly.jp/>

「いまこの瞬間、世界のどこかで」

星野道夫さんの写真に出会ったのは、大学一回生のころ。写真展の会場で、迫力ある写真に、からだ震えて涙が出そうになりました。アラスカの厳しい自然のなかで暮らす動物たちの瞳は、吸い込まれそうに澄んでいて、真剣で、でもどこかやさしい。生きるって、こういうことか。そんなふうに思えました。

そのとき会場で4、5歳の女の子が1人アザラシの写真を見つめていたのも印象的でした。小さい子どもにも響くものがあるんだな。言葉は交わさずとも、感動を共有できたような、温かい気持ちになりました。

写真に収められているのは、地球の片隅のほんの一瞬のできごとです。でもきつと、いまこの瞬間も世界のどこかでオオカミが耳をそばだて、水牛の大群が地平線めがけて進み、シロクマの子どもが母親に甘え、カリブーが凜とたたずんでいるのでしょう。思いを馳せているうちに、ふと、自分のいまも地球の片隅のほんの一瞬のできごとでしかないんだと気づきました。そのとき世界がぐんと広がった気がしたのです。

いま・ここにはないものを想像する。進化の隣人であるチンパンジーとの比較研究からわかってきたのは、それがわたしたち人間に特有の能力だということです。たとえば、顔の輪郭が描かれた絵におえかきをしてもらうと、人間なら2歳後半以上になると「あ、おめめない」といって「ない」目を描きいれます。でもチンパンジーは、筆記具を上手にあつかって、描かれてある輪郭を丁寧になぞったりするのに、「ない」目を描き入れることはありません。

その違いには、言葉が関わっていきそうです。2歳前半までの子ども、最初は描かれてあるところにするしをつけるだけですが、語彙が爆発的にふえてくる時期になると、「ない」目を描き入れるようになります。言葉が想像力を、想像力が芸術を誕生させたカギではないかと考えています。

オーストラリアにアボリジニの岩絵を見に行ったことがあります。オーストラリア大陸にホモ・サピエンスが移り住んだのが4万年ほど前、以来、数世代前まで伝統的な生活を営んできたかれらは、描くことも文化の一部としてうけついできました。アボリジニが描くのは、同心円やU字型などのたくさんシンボル、そして精霊たちの姿です。絵を前に、年長者から若者へ、子どもたちへ、世界の創世や精霊にまつわる物語を語るのだといいます。絵や物語には、ほかの誰かかと想像を共有する力がある。それも、時間や空間をはるかに超えて共有する力があるのです。

人間の文化のなかで、文字がない文化はたくさんありますが、芸術がない文化も、物語がない文化もありません。いつけん役に立たなそうっていて、芸術も、物語も、人間にとって、なくてはならないもの。そこに共通するのは、想像力にはたらきかけることで、ちっぽけな視点からわたしたちを解き放ち、世界を広げてくれることのように思います。

齋藤 亜矢

(さいとうあや)

京都造形芸術大学
文明哲学研究所 准教授

京都大学理学部、大学院医学研究科修了後、東京藝術大学大学院修了。博士(美術)。チンパンジーと子どもの絵の比較研究をはじめ、進化や発達視点から芸術する心の起源にアプローチしている。著書に『ヒトはなぜ絵を描くのか——芸術認知科学への招待』(岩波書店)、『ルビンのツボ——芸術する体と心』(岩波書店)など。

2018 年度活動報告

運営概況

◆ 開館実績 ◆

	2017 年度	2018 年度
開館日	木～土曜日 10:30～18:00 日曜日 10:30～17:00	木～土曜日 10:30～18:00 日曜日 10:30～17:00
開館日数	194 日	193 日
入館者数	10,578 人 (一日平均/54.5 人)	11,844 人 (一日平均/61 人)
貸出冊数	15,050 冊 (一日平均/77.6 冊)	16,216 冊 (一日平均/84 冊)

◆ 所蔵資料状況 ◆

資料数 18,057 冊	
児童図書	15,877 冊
成人図書	840 冊
外国絵本	966 冊
雑誌	220 冊(6 誌)
メディア資料	154 点

◆ 活動報告 ◆ ※ 参加人数は全て実数

1. おはなし会

毎週日曜 15 時半～16 時に、ピッコリーのボランティアグループ「ピッコリーネットワーク（以下、ピコネット）」のメンバーとピッコリースタッフで、絵本の読みかたりや手あそび、紙芝居などを開催。なお、おはなし会スペシャルを 8 月、9 月に開催。

● 実施回数：31 回 ● 参加人数：420 人



2. ブックトークの時間

京都科学読み物研究会」のメンバーが担当。毎月 1 回土曜 15 時半～16 時、テーマに沿って、絵本や読み物、科学の本を紹介。

● 実施回数：9 回 ● 参加人数：389 人



3. おはなしクラブプー横丁

「京都おはなしを語る会」のメンバーが担当。毎月 1 回、日曜 15 時半～16 時、ストーリーテリングを中心に親子でおはなしを聞く機会を提供。

● 実施回数：11 回 ● 参加人数：166 人



4. 工作会

① 週末の工作会

子どもを対象に、ピコネット及びピッコリースタッフが講師となって土曜13時半～16時に開催。身近な材料を使ったアイデア工作を中心に企画し、毎回大勢の参加がある人気の催し。

●実施回数：32回 ●参加人数：828人<開催内容>

- 4月「お花ばたけをつくろう」「カエルがびょーん！」
他全3回 参加人数 51人
- 5月「びゅんびゅんごま」「びりびりうるこのこいのぼり」
他全3回 参加人数 63人
- 6月「みんなの時計は『いま、何時?』」「カラフル雨かさ」
他全2回 参加人数 63人
- 7月「じゃばらでうちわ!」「わたしのぼくのペット」
他全2回 参加人数 52人
- 8月「花火」「ちいさい水族館」
全3回 参加人数 70人
- 9月「らんらんランタン」「飛べ!トンボ」
他全3回 参加人数 101人
- 10月「おきあがりこぼし人形」「紙コップけん玉」
他全3回 参加人数 84人
- 11月「ふきぐるま」「くるくる紙おとし」
他全3回 参加人数 70人
- 12月「クリスマスリース」「パラシュート」
全2回 参加人数 57人
- 1月「ふくわらい!」「みのむし」
全2回 参加人数 50人
- 2月「わたしのすきなごはん」「どうぶつミニポシェット」
全3回 参加人数 93人
- 3月「カラフルおうかん」「なにをいれようかな?」
他全3回 参加人数 74人



5. トットクラブ

乳幼児と保護者対象の活動。「子育てに何かいいもの」をテーマに、木製のおもちゃで自由に遊んだり、手あそびやわらべうた、読み語りを実施。基本的に隔週金曜(月2回)ピッコリー館内で開催。また、0・1歳児とその保護者を対象とした「トットクラブ01」をこども芸術大学が開催。

「トットクラブ」

●実施回数：22回 ●参加人数：225人



6. おたのしみ会

① 冬のクリスマスおたのしみ会

人形劇団「むむのこ」のみなさんによる影絵上演を実施。

●実施日：12月22日(土) 14:15～15:00

●会場：芸術文化情報センター映像ホール ●参加人数：83人

<プログラム>

『それは小さなアドベンチャー』

1. 歌と人形で遊ぼう

ブタくんがあるしていると・・・人形遊びうた

2. 光る影絵「おさんぼ ぼ・ぼ・ぼ」

のんびり歩いていると・・・小さなちいさな大冒険!のはじまり



② 新春おたのしみ会

「京都大学落語研究会」による「親子寄席」

●実施日：3月3日(日) 11:00～11:40

●会場：芸術文化情報センター映像ホール ●参加人数：26人

<プログラム>

『京都大学 落語研究会による親子寄席』

演目1. 落語って、どんなもの?

2. 落語 二席「ときそば」「じゅげむ」



7. その他の催し

お地藏様お参り

- 実施日：8月19日（日）10：30～12：00
- 会場：ピッコリー ●参加人数：13人

<プログラム>

1. 白川通りお地藏さまお参り



8. ピッコリーホームページ (<http://www.piccoli.jp/>)

月別アクセス数

4月	3,905	10月	5,294
5月	4,620	11月	5,925
6月	6,082	12月	5,596
7月	5,212	1月	4,912
8月	5,244	2月	4,851
9月	5,160	3月	5,374

9. その他 *見学、及び、依頼に基づく対外活動を掲載。

●見学

- ・NPO 法人キッズデザイン協議会 8名 6月1日（金）
- ・こども芸術学科 浦田先生、新田先生 2名 7月20日（金）
- ・北白川小学校の教員 2名 見学依頼 8月23日（木）
- ・名古屋女子大学 大学図書館司書 1名 9月2日（日）
- ・北白川小学校 「大すきいっばい北白川のまち」
児童 8名、教員 1名、引率保護者 1名 9月28日（金）
- ・京都市の職員 2名 12月7日（金）

●取材

- ・「日経 DUEL」の情報サイト内、「DUEL おでかけサポート」に
ピッコリーの紹介記事を公開
2月21日（木）

編集後記

2018年度は2017年度より来館者も貸出冊数も大幅に増えました。特に外国籍の親子の来館者が増加し原書の絵本も多く借りられました。催しも本年度初めて京都大学落語研究会の学生さんに口演をしてもらい親子で楽しんでもらいました。ピッコリーでは3世代で読み継がれているような本も多く所蔵しています。これからも長く読み継がれる本を提供していきたいと思います。（村瀬）

